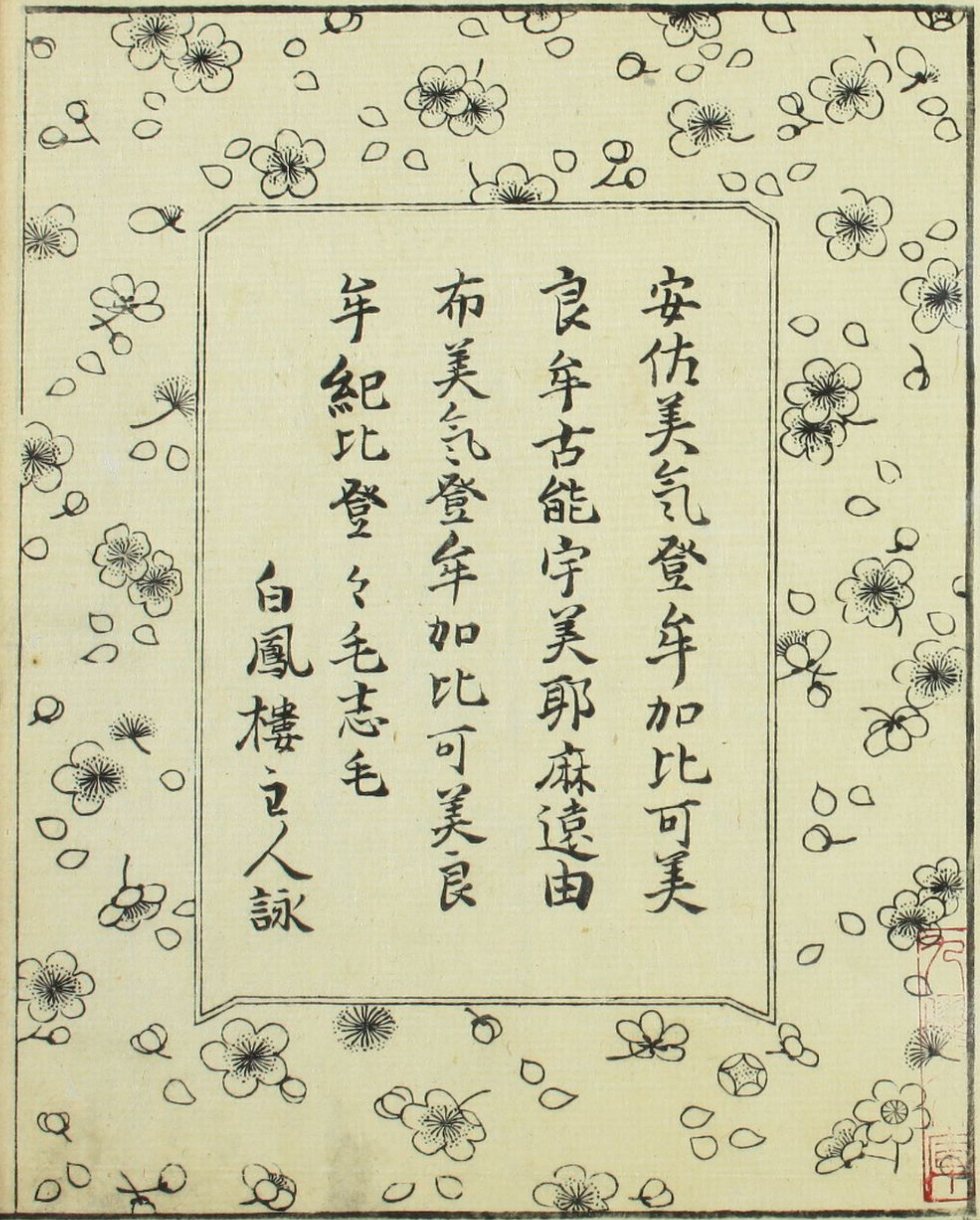


紀伊國名所圖會

四之卷下
名草郡





安佑美氣登年加比可美
 良年古能字美耶麻遠由
 布美氣登年加比可美良
 年紀比登々毛志毛

白鳳樓主人詠



紀伊國名所圖會卷之四下目錄

日前宮

七瀬櫻枝

國懸宮末社

春日若宮

住吉社

八御子社

回神

天旨筒命社

國懸宮

日前宮末社

市夷社

箱荷社

深草社

專女社

楠神

濱宮

八幡宮

天神社

天穗日命社

穴宮

山王社

草宮

草宮

若宮八幡宮

高良社

熊野社

今宮

天道根命社

飛山

飛山

神畔

瀬文 俊長
行文 行長

麻呂比賣神社

忌部里神社

鳴武神社

香都知神社

岡崎御

岡崎御坊

須佐神社

伊太郎曾神社

書御前社

辨財天祠
白山権現 熊野神

天宮

紀伊國造殿館

古社人職名

天満宮

大友持神社

鳴神社

廣光德寺

生魚石

都麻津比賣社

奈久智寺

平尾王子

龍吟池
妙見宮 不動飛泉

丹生神社

丹生神社

国造家曆代

古社役人

藥德寺

直水谷

撰社

堅真音神社

満願寺

日限寺

普門寺

觀音寺

末社

足守神

足守神

溝の内

藥師堂 觀音 鎮守社

大日堂

天照大神宮

宇賀神社

音浦樋

鎮守能野権現

ちかしの洞

鎮守能野権現

真徳院

傳法院

丹生神社

永山松茸

御炊屋

及橋

天造母命

天坂彦命

天太玉命

天背男命

天遇突知

天日神命

天表春命

天月神命

金山彦命

武庫槌命

手置帆負命

周象女命

豐玉命

天造母命

天坂彦命

天太玉命

天背男命

天遇突知

天日神命

天表春命

天月神命

金山彦命

武庫槌命

手置帆負命

周象女命

豐玉命

天造母命

天坂彦命

天太玉命

天背男命

天遇突知

天日神命

天表春命

天月神命

金山彦命

武庫槌命

手置帆負命

周象女命

豐玉命

天造母命

宝光寺

大師堂 鎮守祠
揚柳池

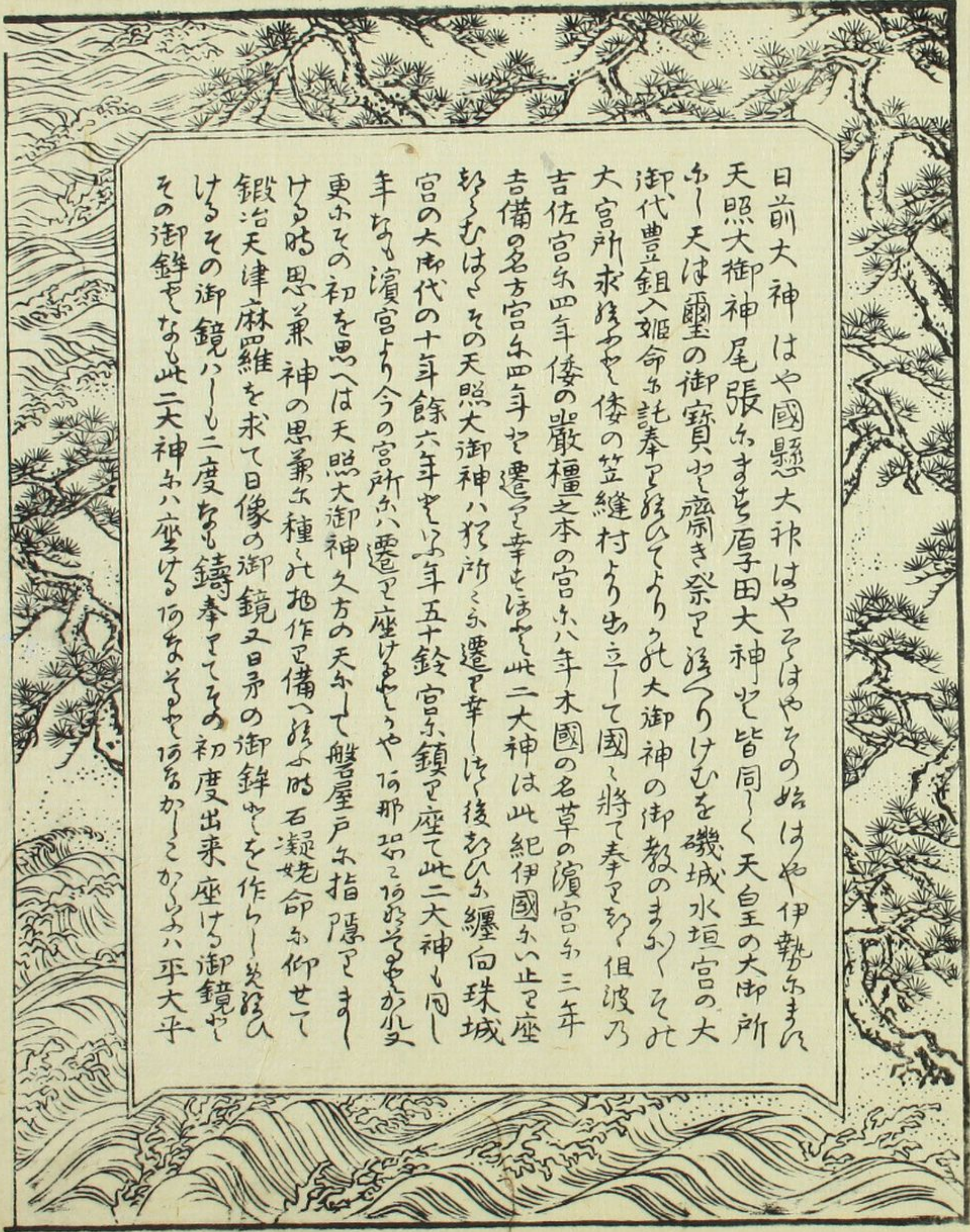
最初が峯

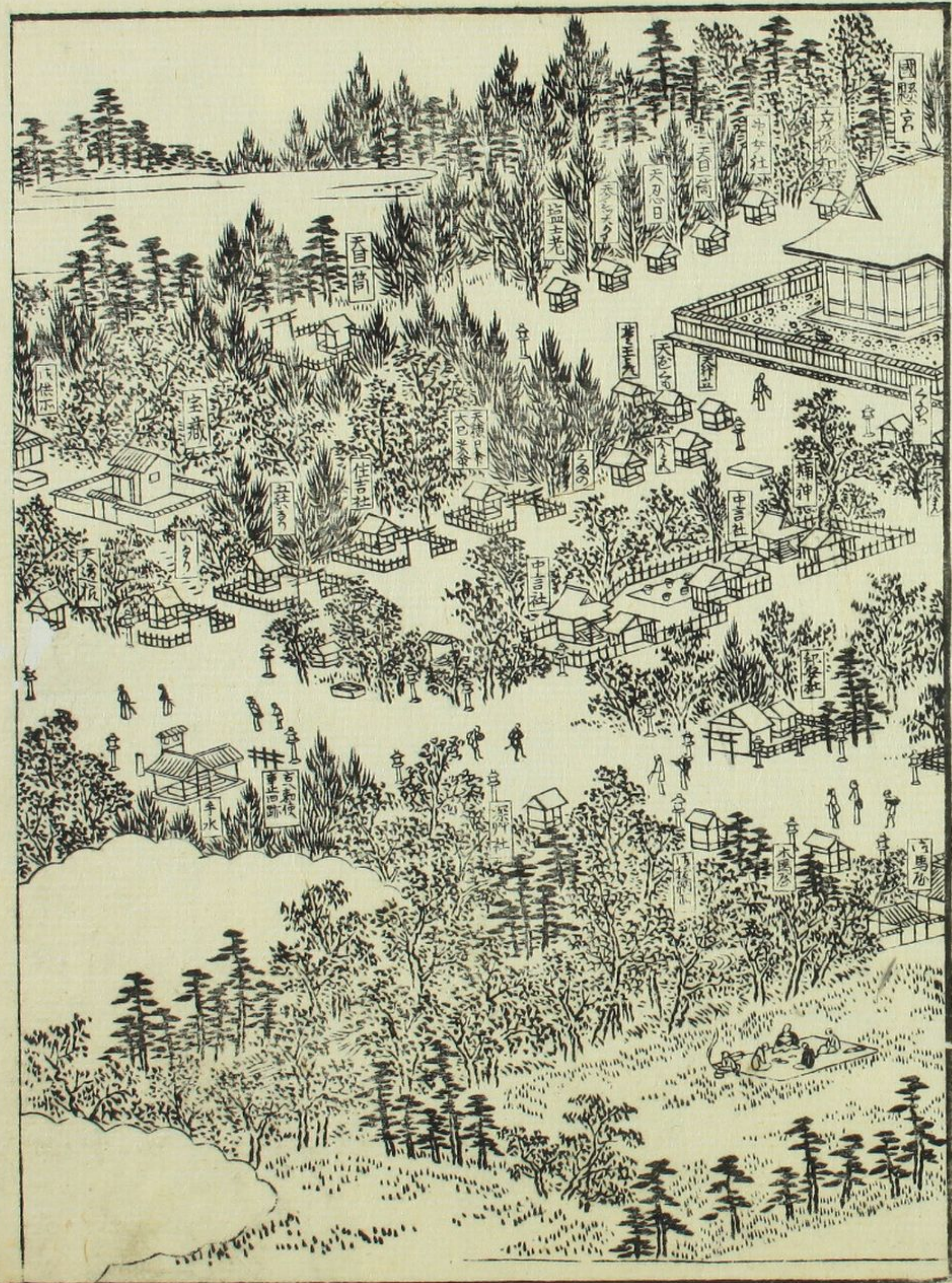
願成寺

観音寺

西光寺

日前大神はや國懸大神はやるはやその始はや伊勢ふるま
 天照大御神尾張ふるま盾子田大神と皆同く天白玉の大御所
 ふく天は爾聖の御寶也齋齋き祭と後つりけむを磯城水垣宮の大
 御代豊鉏入姫命と託奉と後ひてより此大御神の御教のまふくそ此
 大御所求後あや倭の笠縫村より出立て國々將て奉と初但波乃
 吉佐宮系四年倭の嚴檀之本の宮系八年木國の名草の濱宮系三年
 吉備の名方宮系四年遷と幸とほや此二大神は此紀伊國系止と座
 移とむはと天照大御神ハ移所と遷と幸と後移ひと纏向珠城
 宮の大御代の十年餘六年より年五十鈴宮系鎮と座と此二大神も同し
 年にも濱宮より今の宮所系八遷と座けとや何那恐と何おそと何お
 更ふその初を思へは天照大御神久方の天ふて船屋戸系指隠とま
 ける時思兼神の思兼系種と此地作と備へ後と時石凝姥命系仰せて
 鍛冶天津林四維を求て日像の御鏡又日矛の御鉾やを作らと後
 けるその御鏡ハ二度も鑄奉とてその初度出来座ける御鏡や
 その御鉾やも此二大神系八座ける何おそと何おかとから八平大平





其二

四ノ九八



水鏡の白
 竹代の鏡
 ありては
 一日前
 まま一内裏
 おんま内侍
 竹よみ
 きんあけ

日影を
 鏡を
 鑄
 圖

座の羊麿瓜等うけりてまへに琴弓うけしむるまへにこと
わよそ六百七十餘年まへに濱宮より二十餘年萬代宮へ遷
居の後千八百四十餘年通計二千五百四十餘年の星霜と後
くともくまへに復りまへに神を以て上を人より下百姓に
至るまへに崇敬厚き宮居ありしめく遷宮ありけり付い
大内よりありて神寶をよめりてことばをありたり
三十萬足窪物とくくたまりてくく永仁年中の舊記ありとの餘神宝をよめりて
この文徳實録の宣命に次第の大神宝の條西宮記北山披今その書にうへくく
兩宮神領の國造家舊記を考るるに天道根命は當國瓜
たまりて瓜神領のくまへに承あつていり舉國のくまへに
三千町を神領瓜以て年中大小のな終百二十餘箇条の
修めをなせり事あり式部式名草郡を神郡とてくまへに
くまへにあり其餘神領のくまへに論旨院宣によむ六波羅
の神教書室町家乃神教書本數十通國造家乃藏とる

とこの嚴然とるまへに天正十二年

神君小牧山神陣の神は國造忠雄朝臣ありてを以て
神味方とて家臣の命とて郷民を催し給とる乃
僧徒赤牒ありてすや泉及み出張せしが白秀
吉く瓜ぬんぐは十二年當國に弘入し根を引を
焼亡し國造家累代のち田城瓜山せめり社頭瓜
破却し神領瓜没収とてくまへに忠雄朝臣兩宮乃神
靈代をなす神室舊記等を考るるに高野山乃
ふりてのが瓜ぬんぐはせしが軍兵退散の後程をく兩
大神をなすふらび地はぞくまへに
大内記よりくまへに意趣なりとくく國造家本より瓜田むし
惣光寺の旧記より瓜ぬんぐを見えく瓜田城跡の條より瓜田
かくく秀吉没収の後の神領の
國君より寄附たまりて國造家藏し嘉禎年間

神領（他領）のあきくひ證文ありたゞ出せり

日前國懸社所遷宮時四面四至糾定郷々夏

北	乾	西	坤	南	巽	東	良
他領 神領	他領 神領	他領 神領	他領 神領	他領 神領	他領 神領	他領 神領	他領 神領
神領 六十谷庄道 蘇津郷 若鷲カ畠	本有本郷 北有本郷ノ道 同シク有本郷	小宅郷 西嶋 西畠 大田郷 西畠 吉田郷 本畠 新畠	毛見郷 西豆 錢丸 同シク有本郷	大崎海 海擔子洲 於當東 小鷲甲 奇於當 丑方 堺	冷水郷 海 三井ノ之神山 頂上少シ見 元堺	舟尾郷 海擔子洲 雜賀庄海	直川庄上ノ芝原 松鷲郷 栗栖庄 細工谷 有間郷 永沼郷 西方寺 免畠 湯橋庄 岡崎庄 堀之尾 東頭越 神前郷 福飯 峯筋

右嘉禎元年御遷宮ノ時之四面四至係先例同シク四年九月廿五日依被糾定令注進之狀如件

嘉禎四年戊戌九月廿五日 紀伊國司從五位下源長信

兩宮注古年中仍事之名目大概

代法次子末畠之

○正月

- 小朝拜 元日 二日 三日 政始 二日巳後七日以前撰吉日 自中古用二日
- 献卯杖 上卯日 献破竹 六日 白馬節會 七日 有勅始上宮者國懸宮也十日
- 御酒水迎 十日 上宮御酒造祭 有勅始上宮者國懸宮也十日
- 都鎮部御祭 十四日 十五日 縮歌 十五日於草宮前有縮歌
- 鎮御殿 十六日 早且 御鉾山御祭 十六日御鉾山者和佐高山也
- 名草姫御祭 十七日 名草彦御祭 十八日
- 大歳祭 廿八日 下旬撰吉日自中古用 堰祭 下旬撰吉日

草宮荷前 晦日凡毎月如此

○二月

朔幣十列 朔日凡毎月如此

荷前里神祭 十五日凡毎月如此

○三月

大小荷前 三日

草宮荷前 三日 十五日

御種子下祭 下旬撰吉日

○木子祭 晦日

○四月

供擲燭 八日

伊佐利伊祭 上寅日

氏神伊祭 上申日

珠沫真祭 撰吉日元者三月下旬也

伊田方祭 下旬撰吉日

吾月今日至十一日夜国造参籠

○五月

供昌蒲蓬 四日

伊田殖祭 下旬撰吉日

供祿 五日

○六月

五上申 上旬撰吉日自中古定八日

草宮荷前 廿日

三久方祭 下旬撰吉日自中古用 廿五日六日之間

季祭 晦日

名越之祓 同日

○七月

進素餅 七日

草宮荷前 同日

日前宮伊穗取始伊祭 十日

津萬年幾祭 十五日

下宮專女伊前伊祭 十二日下宮八日前宮也 專女伊前八木社也

○八月

草宮田宮土祭 時正撰吉日

草宮荷前 十五日

八月祓 上中旬撰吉日

○九月

一日今日被定臨時祭流鏑馬射于

中言伊祭 上旬撰吉日

毛見中言社祭 九日

静火市祭 十五日入夜於草宮
有宵曉之祭

名草姫市祭 十六日

相撲内取 廿五日

後宴 有嚴承白拍子勤
其役々廿七日

○十月

一日 又今日奉納幣於兩宮之室藏
次第與六月朔日同

宮奉行渡之祭 廿三日

調庸市祭 下旬撰吉日自中古
定廿六日畢

○十一月

日前宮相嘗祭忌固祭 一日

鳴神社祭 上卯日

氏神祭 上申日如四日

國懸宮市總上市祭 十五日

名草彦市祭 十七日

丹生大明神入市 早且入市草宮十六日

流筒馬 廿六日

○序子祭

箇引祭 元者九月也十五日以前撰吉日於
中田浦有此儀

珠津島市祭 元者九月也撰吉日
其次第如四月

中言社鼎祭 廿七日

栗寫祭 同日

伊左衽曾祭

高大明神祭 上酉日元中酉日也

相嘗市祭慶盃造祭 三日

慶盃起祭 七日

市麴合祭 十一日

黑市酒造 撰吉日

市殿用市祭 十四日

玉殿莊市祭 十六日

大集祭 十八日

○十二月

國懸宮相嘗祭忌固祭

黑市酒造 撰吉日

相嘗市祭 十五日

市解除市祭 相嘗市祭自今日至
十九日四夜之神事

小集祭 十八日

同慶盃伏祭 五日

市穗下祭 九日

白市酒造祭 十三日

相嘗市祭 十四日

市解除市祭 十五相嘗市祭自今日
至十八日四夜之神事

小集祭 十七日

庭立祭

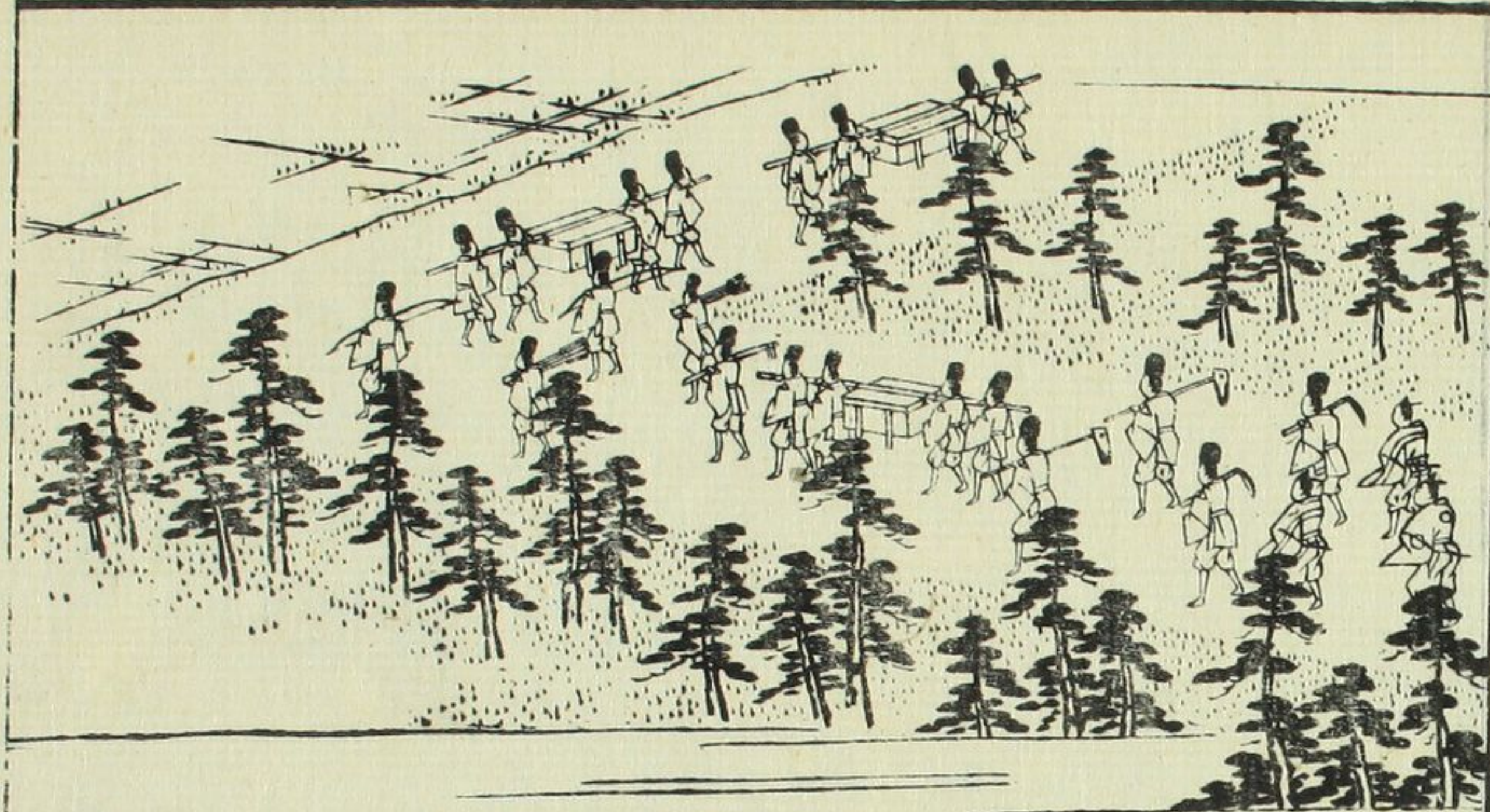
一日 三日 五日 七日 九日
十日 十一日 十二月同

市酒水迎 十二日夜也

市殿用市祭 同日

玉殿莊市祭 十七日

大集祭 十九日



天明五己
九月廿七日
七瀬大後
神幸諸
班列



經津主命社

天津彦根命社

天日鷲命社

天穗津大來目社

埴山姫命社

大山祇命社

天青根命社

大目一箇命社

武甕槌命社

活津彦根命社

手置帆負神社

塩土老翁社

岡象女神社

天熊人社

豊玉命社

天押雲命社

閻 龍 社

手刀雄命社

彦投知命社

豊玉彦命社

少童命社

天德日命社

天忍日命社

天神立命社

以上二十社國懸宮瑞籬の外四方に羅列す

○撰社 二十座宮中の所々にあり

市夷社

八幡社

若宮八幡社

春日若宮

稲荷社

天神社

高良社

住吉社

深草社

天穗日命社

相殿大己貴命

熊野社

八御子社

穴宮

今宮

回神

楠神

草宮

伏拝所

宝社

天逆根命社

天月一箇命社

○同撰社

瀨宮

草宮

御造家の

○殿舎

神庫

御宝藏

神樂殿

中炊屋

大々神樂殿

神具藏

惣門

三井垣

廳屋

社役所

大鳥居

○飛山

社

御

神

○神畔

社

御

神

Handwritten notes and smaller text at the bottom of the page, including names like 神樂殿, 御宝藏, and 神具藏.

辛代 親文

從三位南朝よおはしりおんかろ勅撰よきま

辛代 俊長

侍從從三位具盛性孝まふたうりまふたうり勅撰よきま
北朝よきま

二十代 行文

從五位上六條たまふたうり勅撰よきま
從五位上六條たまふたうり勅撰よきま

辛代 行長

○園造家城址

右田村よありけきしん

○古の社人職名

白冠ニ人 人母ニ人 行事ニ人 以上六神官と稱す 推行事

相見ニ人 大内人ニ人 火焼ニ人 権内人ニ人 大業主ニ人 以上中臈

酒殿守ニ人 土師ニ人 沖琴引ニ人 茶主廿人 内人六人 以上下臈

○古の社役人

青侍

人おきしり官位はたす園造家の老臣にして社役をも是役も府行儀節
の若れ十れきして九月行儀流備馬共余社役をも令勤仕

宮奉行

宮中よきま

伶人 巫女八人 駿子六人 出納 中間 日上

大工二人 小工二人 引頭一人 権守一人 以外小工もあはれ足

鍛冶二人 土器師二人 檜皮師二人 墨大工二人

繪取二人 瓦工二人 樂頭 相撲 白拍子

物外

溝の内 日本文七歌の後志の共一たり

麻呂比賣神社

律儀村あり○古俗千子の社あり○近世武社名は麻呂比賣神社

天満宮

日村あり○古俗千子の社あり○近世武社名は麻呂比賣神社

瑠璃光と普照院藥徳寺

日村あり○古俗千子の社あり○近世武社名は麻呂比賣神社

○芦原藥師堂

薬師堂あり○古俗千子の社あり○近世武社名は麻呂比賣神社

○本尊弥勒如来

薬師堂あり○古俗千子の社あり○近世武社名は麻呂比賣神社

當寺茶師半安置一なる茶師の像もこの所
 上なりし者なれば此所の只此の寺に在る茶師の
 人のすむべし家居一なるも此の寺に在る茶師の
 もありし者なれば此の寺に在る茶師の
 ひろくたるといふに遠近人のもるふきくも
 まづぐもくは採らむるも不也議も医王大徳の
 像なる赫々として出現すくぬ群わらんくも
 りたれはももあなだもいふもを湯作徳也あこ
 くと別草堂のやとを安置一なるも此の寺に
 より出現たりし人なれば世にせりく芦原の薬師
 如来の傳つり其の人の皇二十九代天智天皇天下
 たりし者なれば此の寺に在る茶師の
 とせむし一の帝の歡感たりし者なれば此の寺に

芦原薬師如来
 出現の所



日く殿塔の莊嚴まじりて造営まじりて猫滴光の
額をあげてありけりてとて宮寺まじりて勅願の論を
たぬりてけりて法好くはけりて聖験日にお
らるるに七十四代鳥羽院上皇然野御幸なりたま
し加賀のちも鷹興とまじりて十塔の山を過と
むけにまじりて宮をわたりて還都の後薬師
の寺像一尊と勅賜たりてあり
そまじりて十塔の王子瑞光に感し鳳輦とまじりて
いばまじりて中帰依ありてありてありけりてあり
ありてありてありてありてありてありてありてあり
又出院草創のむしありてありてありてありてあり
まじりて主勢とまじりてありてありてありてあり
が中葉以降四海にわたりてありてありてありてあり

かそく堂舎のまじりて色まじりて終る所伽とる法際もあり
まじりてありてありてありてありてありてありてあり
のほりてありてありてありてありてありてありてあり
夫れ如弥陀薬師の三佛の奉りてありてありてあり
法門のまじりてありてありてありてありてありてあり
念佛の道場とありてありてありてありてありてあり
へりてありてありてありてありてありてありてあり
しよ後して此の巨刹とありてありてありてありてあり
法水の家より田園と寄附せられし國君ぬりてあり
中帰依ありてありてありてありてありてありてあり
○什物茶際画像 勅願 ○釈迦像 思養系 ○浄土曼陀羅
彩卷はまじり ○十六羅漢像一幅 名はまじり

秋日吳故藥德寺底卷上人

中例

雲梅曾解津梁芳風月徜徉意更高逝矣

丹砂暖日短滿天雨色共蕭騷

忌部里神社 井田村あり○大人これと云ふは前より ○祀る神天を皇神

古事記小布刀玉命者忌部首等之祖と云 姓氏録右京

神別小齋部宿禰方皇產靈之子天を皇命の後なり

忌部神 忌部神は伊弉諾の神なり 伊弉諾名抄云忌部

首の祖と云る古語拾遺小曰天を皇命所率神名曰天日乾命

阿波國忌部手置帆負命 後醍醐天皇 彦根命 紀伊國忌部 櫛明玉命

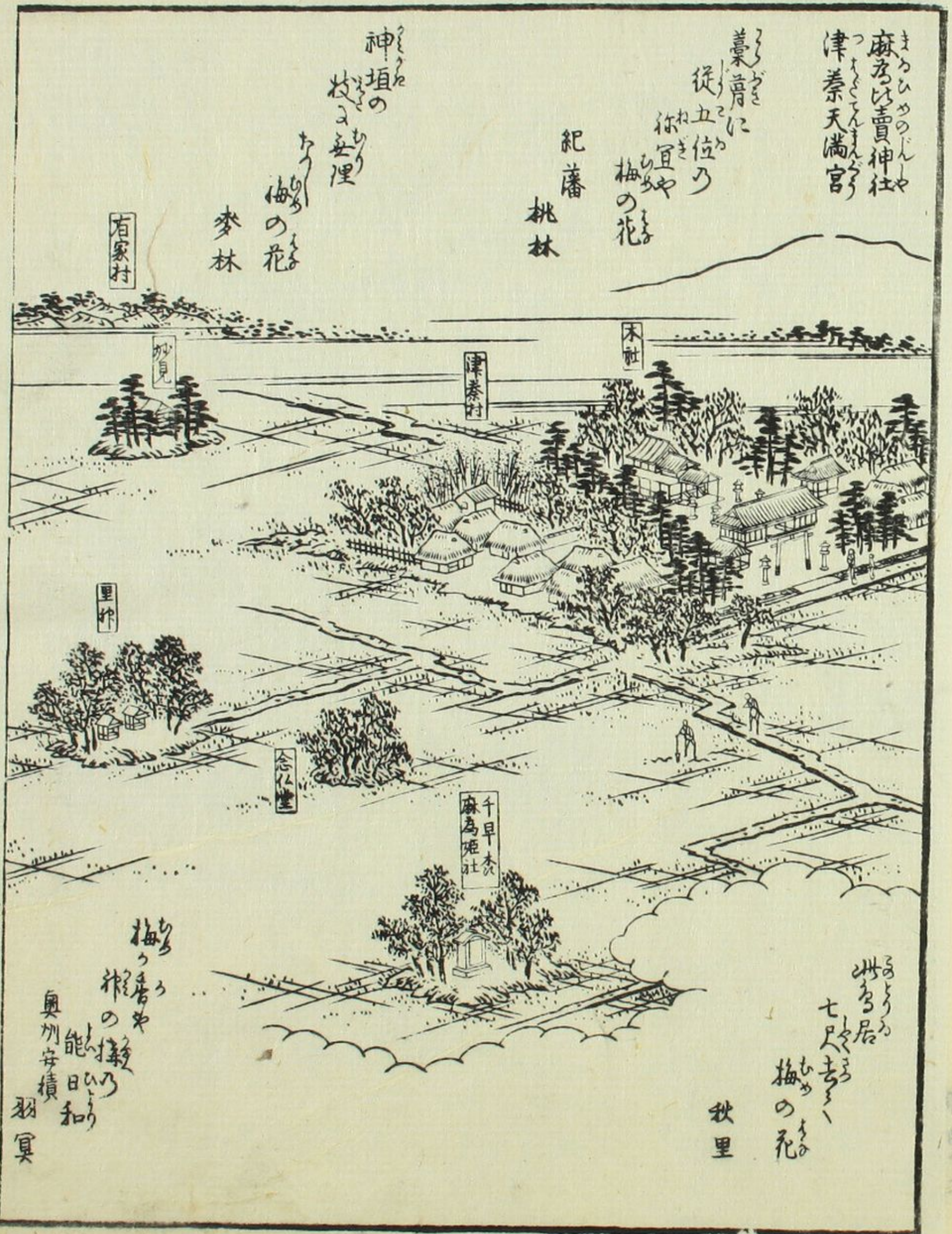
天目箇命 能登彦命 又曰天目玉命率諸部神造

和幣と云又曰天目玉命率諸部神供奉其職加太上儀云

其長たる由の姓なりと云まこと云命と云は同書小皇

産靈神男天目日命房たりと云る延喜式神名帳

其長たる由の姓なりと云まこと云命と云は同書小皇



麻呂の神
津養天満宮

從五位の
梅の花

紀藩
桃林

神垣の
枝

梅の花
麥林

有家村

里中

千早奈麻呂社

梅の香

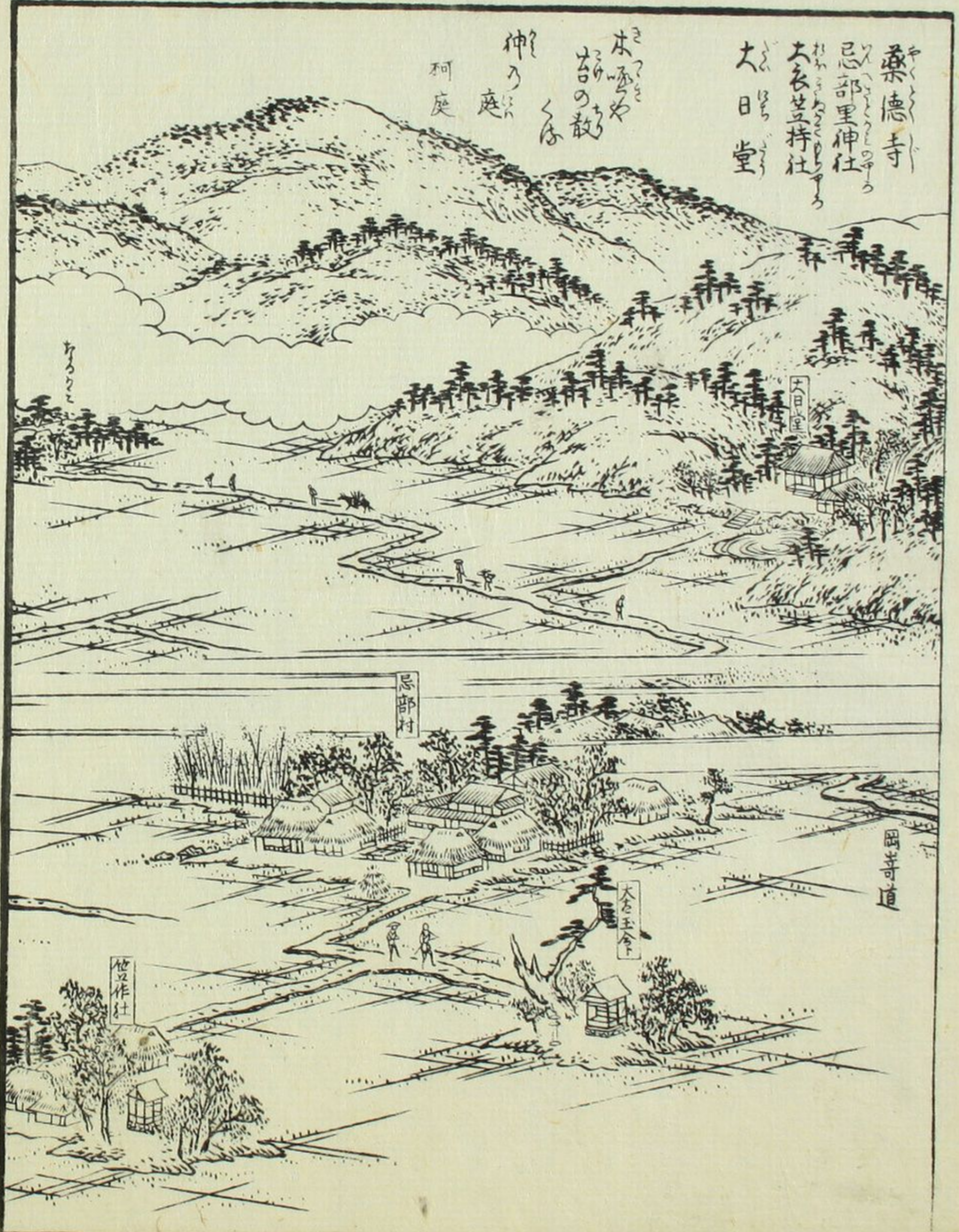
能日
奥州安積
羽真

此の居
七尺
梅の花
秋里



秋の夕陽
 家持
 光
 根州大石
 士巧
 秋月
 日前宮

紀藩
 風察
 方丈の
 小春
 燭の



桑徳寺
 忌部里仲仕
 大長堂
 大日堂
 本
 古の故
 仲の庭
 列度

四四十七

たるに難波長柄を承約 孝徳天皇 白雉四年に忌部首作を新
を神官頭今の神祇伯耆 以振一をいふ作か新が後其職を治ぐ
しあつたにさうして漸く妻微一津津原朝天皇白鳳
十二年天下の万姓とあつたなりつて八等の位階と定め
あるに既に中臣氏のみ第一の地位をあつたまふに忌
部氏のみ第一と改しつて第一の官祿をたうしあつたに別
廣成が古語拾遺とあつてつてその漸くつりりつて
を致さし所以あるふとせ

延喜六年日本紀之竟宴得太玉命 物部安興

比佐嘉多能行麻豆流呵美乎伊能留度曾母多母
須惠く亦奴佐波志互氣留

大夜笠持神日本書紀紀乃神乎置帆負命日本書紀正位

○日本書紀神代卷に天津彦火瓊瓊杵乎此苦余乃

中津國を馭さるんがめふとつて日向の穗日高千穂
の家々天降つてまはり及ぶ日経津主神以岐神を御守周
流削平有逆命者所加斬戮順者仍加褒美是時神順
之首渠者大物主神及事代主神乃合八十萬神於大市
師以昇天陳其誠教之至時高皇產靈尊勅大物主神
汝若以國神為專吾猶謂汝有疏心於今以吾女之穗津姫
配汝為妻之國領八十萬神永為皇孫奉護乃使還降之
即以紀伊國及那遠祖乎置帆負神定為作笠者彦狹
知神為作盾者天月一箇神為作金者天日鷲神為作本綿者御
明玉神為作玉者乃使右玉命以弱肩被右手繼而代神乎以奈
此神者始於此矣且天兒屋命主神事之宗源也故傳以之占
之下事而奉仕焉と
梅は古俗指さるる手置帆負命と後國の記に
表被る命と紀伊の記に記さるる手置帆負命と
又
日書に冷天宮今率乎置帆負命と記さるる手置帆負命と
鹿香二御と記さるる手置帆負命と記さるる手置帆負命と

つるはれをまわし西のふり... 大日堂のまはまりやせんを...
つるはれをまわし西のふり... 大日堂のまはまりやせんを...
つるはれをまわし西のふり... 大日堂のまはまりやせんを...
つるはれをまわし西のふり... 大日堂のまはまりやせんを...

直水谷

大日堂

○**湯夷の滝** 本社の西にあり...
○**本なる大日如来** 住持大時...
○**牛岩** 本社の西にあり...
○**鳥焚** 一斤のけり...
○**早奉堂** 一冬乃...
○**平垣** 寺の西にあり...
○**安徳** 寺の西にあり...
○**安徳** 寺の西にあり...

ありけるまふに僧徒... 明き...
ありけるまふに僧徒... 明き...
ありけるまふに僧徒... 明き...
ありけるまふに僧徒... 明き...

鳴神社

例祭

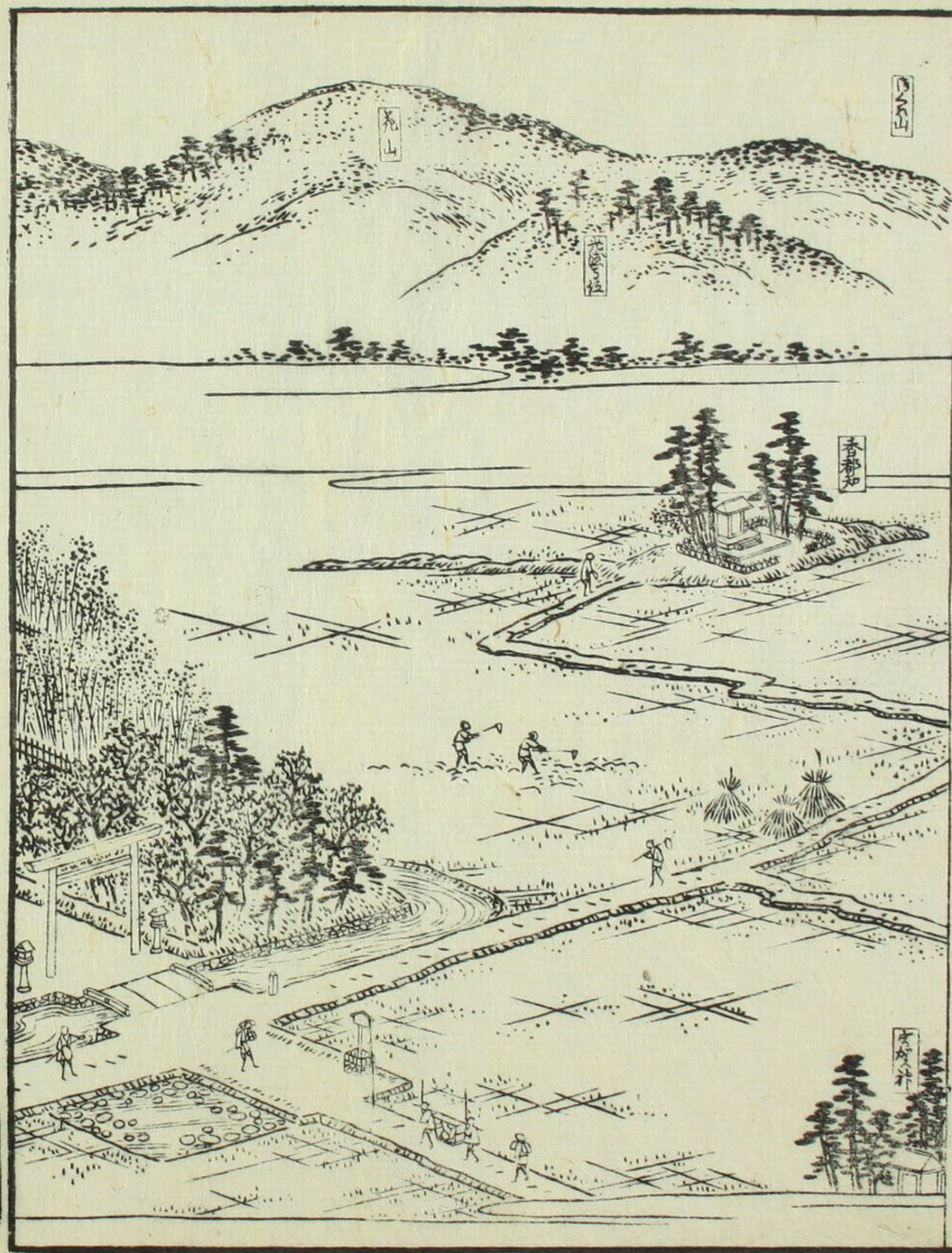
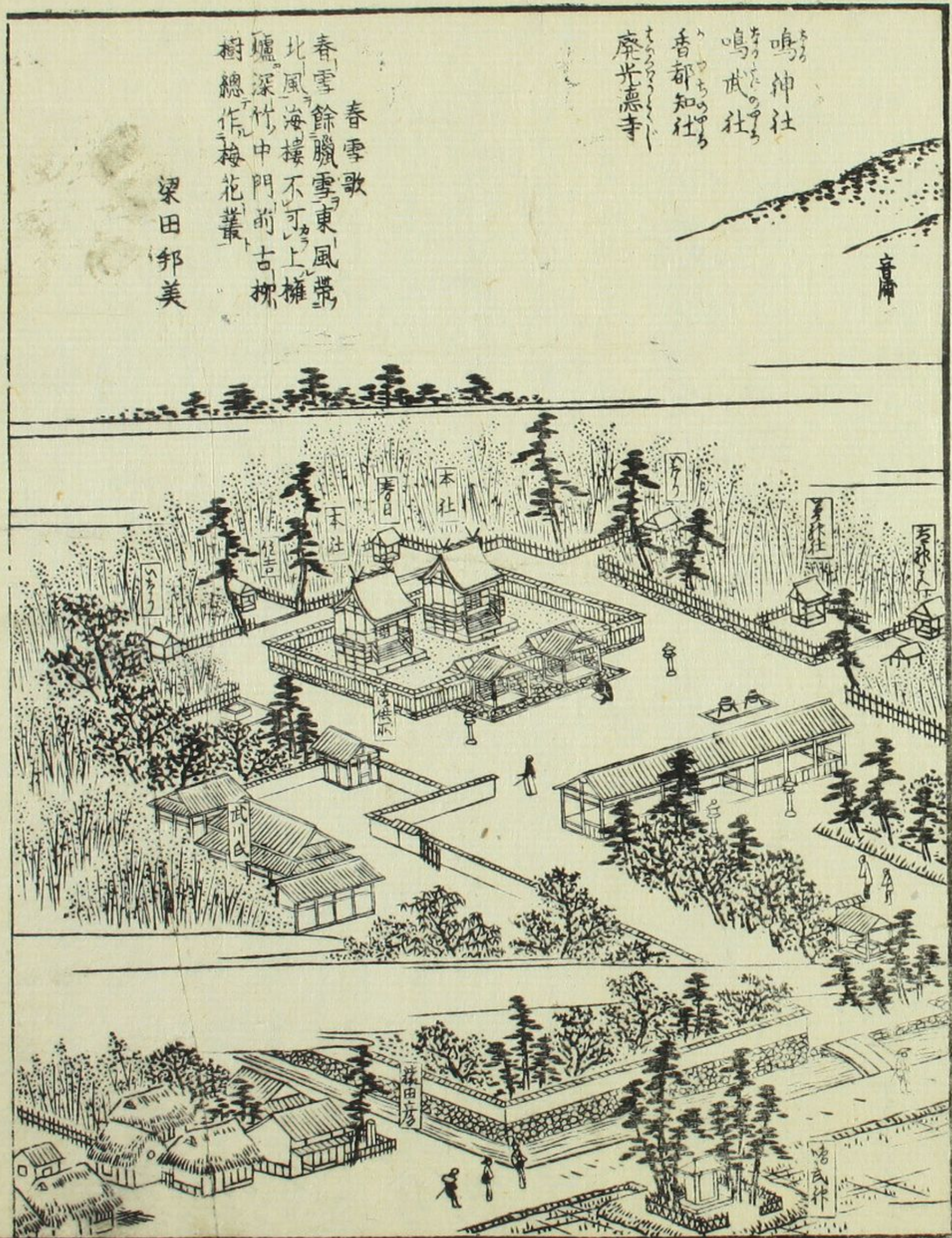
○**延喜式** 神名帳...
○**本國神名帳**...
○**水門神**...
○**古事記**...
○**延喜式**...
○**本國神名帳**...
○**水門神**...
○**古事記**...

社傳曰秋津島宮小御宇日本皇孫彦彦國押人天皇 孝安帝

春雪歌
 春雪餘臘雪東風帶
 北風海樓不可上擁
 爐深竹中門前古柳
 樹總作梅花叢

梁田邦美

鳴神社
 鳴武社
 香都知社
 廢光惠寺



の歩付に御免もとぬ此大草郡不陥して人民多き者
 天香語の今の後瀛津世長命を御許ありておこ
 らく水門神速秋は日神の教齋をけりまじか
 止じど一ツまは是神が御大香語の命を
 たまはしてまはすけり一奉りて天皇乃ら
 瀛津世長命を武角の依命とて其まは
 執りて一奉りてまはす二命を御許ありて
 あり御の御舎に速く速秋津彦速秋津姫の二柱
 と拜鎮まりて則武角の依命とて一奉りて
 たまはす
武角の依命のふれをりて
 櫻社
 ○夢神社 武角の依命のふれをりて
武角の依命のふれをりて

○天照大神宮 ○春日社 ○住吉社 ○八幡宮
 ○宇賀神社 中にある ○八王子社 前村小のうらま
 鳴武神社 鳴武神社の 鳴武神社 鳴武神社の
 安三平ふりて
 國君より石祠を建てて今に修死とらんたまはす

香都知神社 香都知神社の 香都知神社 香都知神社の
 妙景山光徳寺遺跡 妙景山光徳寺遺跡の
 堅真音神社 堅真音神社の
 祭る神神吾田康草津姫命 祭る神神吾田康草津姫命の
 上の真神の御官社 ○又日長八本園二月丙丁朔十三日成干紀伊五位上皇太后



音浦堰斗門おんうらゝいのゆゑありおんうらゝい此斗門の紀の川行々この川共猪いづこもたんと

按徒四位下〇堅真音社の神事... 此斗門の紀の川行々共猪もたんと... 堅真音社の神事... 此斗門の紀の川行々共猪もたんと... 堅真音社の神事... 此斗門の紀の川行々共猪もたんと...

岡崎市場



願所——七世仙益とけ造速あつて内裏ふとせり
 救世大士のま像を遷して此の安置せられたる人
 幸堂よびん
 ちうふ延久二年二月三日の曉天ふ祝融氏の
 崇あつて一字とせられたる灰燼より此の奉る聖典とて
 没入ふ社境のけしき著しく猛焰乃中ふといりり
 ふりうなる桜花奉奉ふたせられたるぞふと張かる僧尼
 お既ふ四方ふ退教——誰はふるものもなきことどもま
 あつちたる奇特なまき御氏さうことよりはまき
 ちりらふ草堂とてさうしてこれふ安しきりむし
 かりり草のうくても安ふとゆりしう天仁二年
 八月を羽天皇御願ふよりゆく三ふまむ新話ふたし
 むつふ夜おさるまき眼四臂のけすぐさく指示殿
 光明をたまら示現しくのりぬりかこれあ考

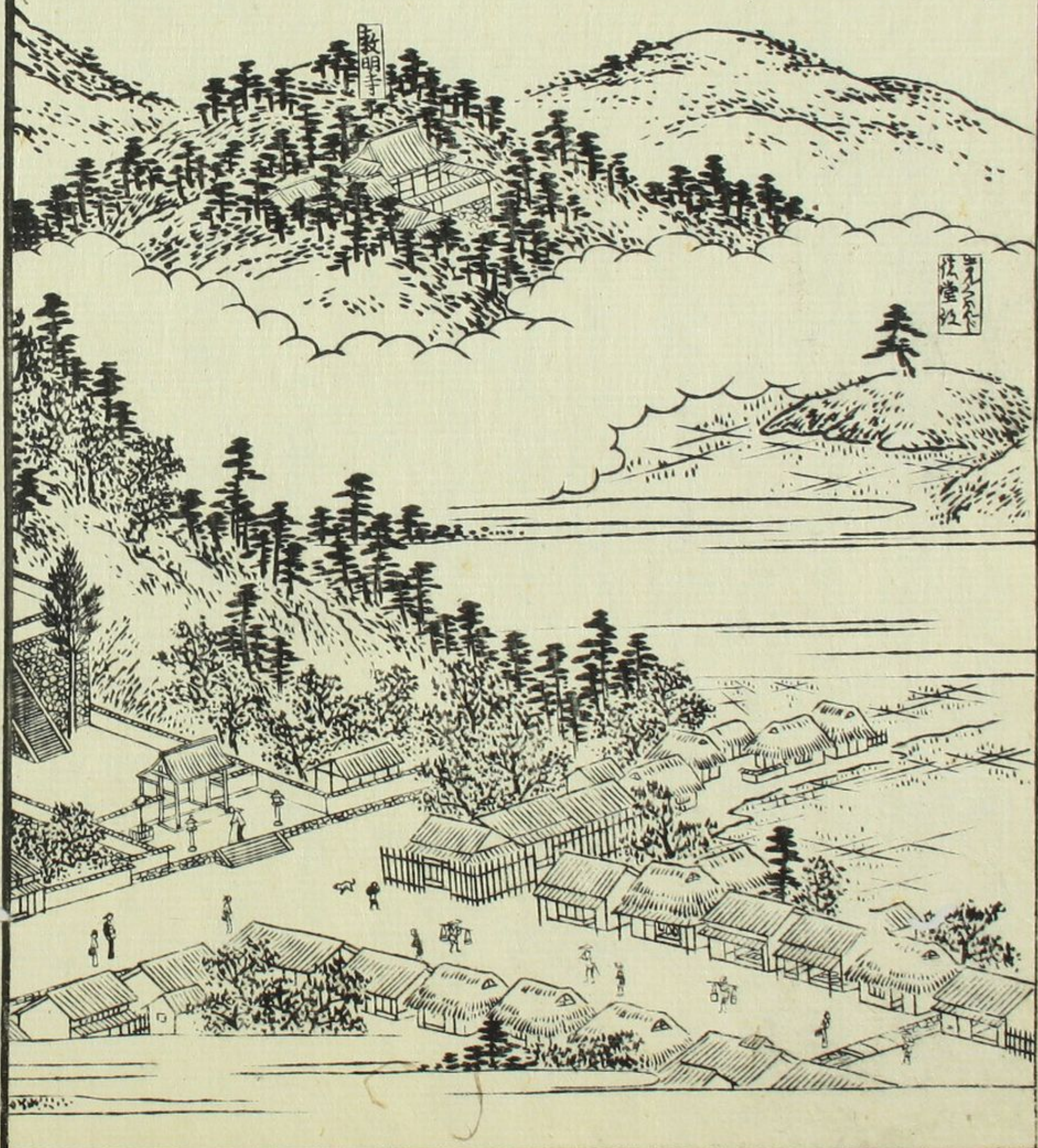
九重の内におつて宮祚と守護と一觀自ら至善至徳あり
今統の岡寺お勝地をいぬ京城とてこの遙たうこと
ども天皇崇れあつてごらふのつくもるべくおとく違預
とさうしてさうりなまひいふ帝の帝枕およりて摩頂一南
をさうしてさうりなまひいふ帝の帝枕およりて摩頂一南
あつてさうりなまひいふ帝の帝枕およりて摩頂一南
四月上皇 御院 慈母 淨華の御うけ地おたつて靈
跡と尋ねあつておたつて御うけ地おたつて靈
廢也一とつてさうりなまひいふ帝の帝枕およりて摩頂一南
もあつてさうりなまひいふ帝の帝枕およりて摩頂一南
とせねいふ御院の御うけ地おたつて靈
跡と尋ねあつておたつて御うけ地おたつて靈

時を夜をたつてさうりなまひいふ帝の帝枕およりて摩頂一南
あつてさうりなまひいふ帝の帝枕およりて摩頂一南
一條の御うけ地おたつて靈
跡と尋ねあつておたつて御うけ地おたつて靈
とせねいふ御院の御うけ地おたつて靈
跡と尋ねあつておたつて御うけ地おたつて靈
四月上皇 御院 慈母 淨華の御うけ地おたつて靈
跡と尋ねあつておたつて御うけ地おたつて靈
廢也一とつてさうりなまひいふ帝の帝枕およりて摩頂一南
もあつてさうりなまひいふ帝の帝枕およりて摩頂一南
とせねいふ御院の御うけ地おたつて靈
跡と尋ねあつておたつて御うけ地おたつて靈

満願寺

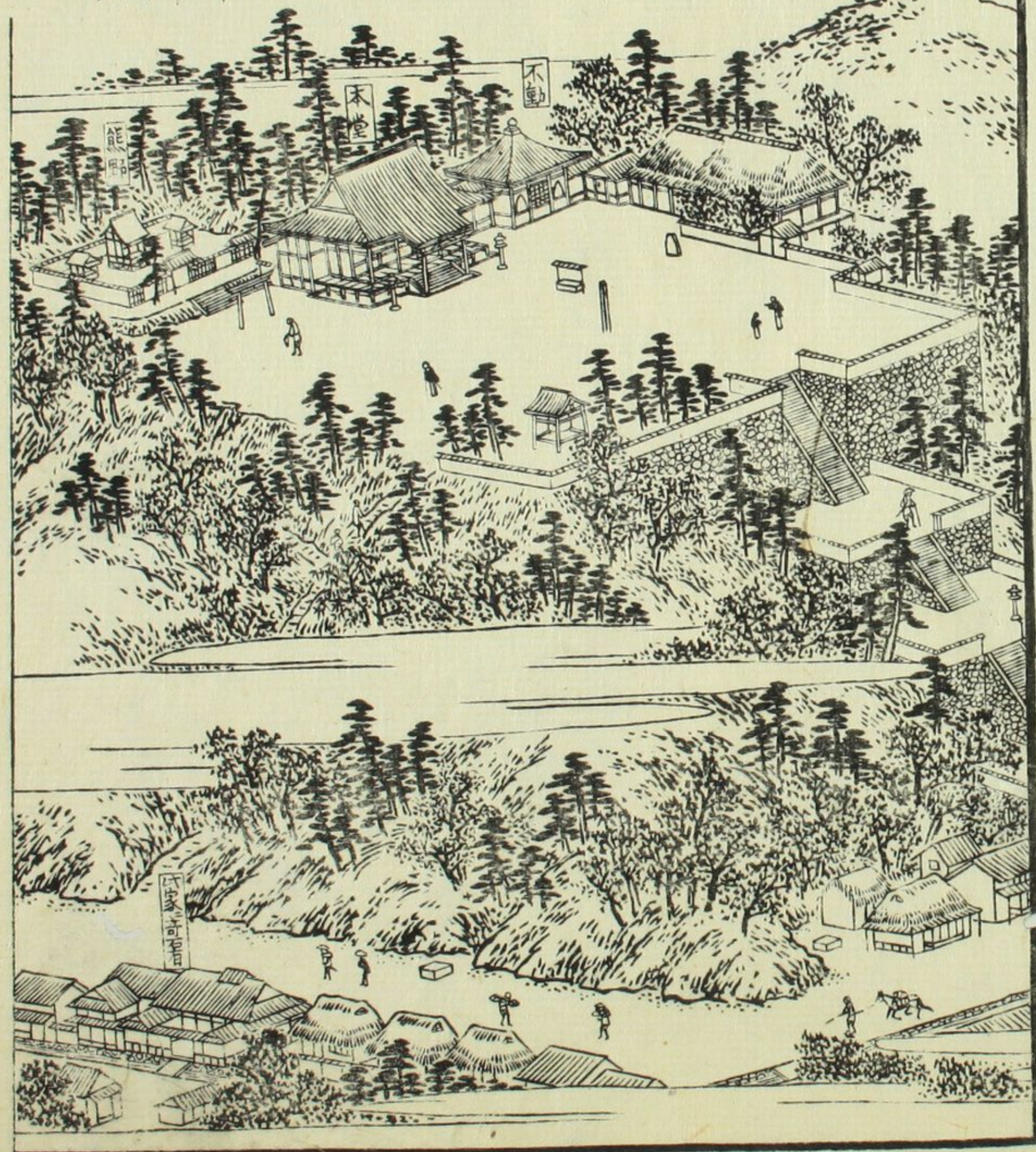
秋郊閑望
一村桑柘暗
千畝稻梁肥
藍水流紅日
白雲住翠微
世途榮願薄
今古賞音稀
尚愧機心在
山會驚却飛
伊藤長胤

季秋携客
遊満願寺
吟行山寺下
驚見白毫光
香象凌津渡
珠衣拂露相



懸泉窓外落
喬木簷前長
儻數金繩駐
遊人奈夕陽
坂井清洲

満願寺
懷古
法勝靈區
翠微寬公謀
國車空非十
年空位長無
恙萬里投荒
獨不歸蛻骨
一簪童子手
鮫珠幾瀉老
僧衣祇今談
合猶留谷精
舍重逢佛王
輝
丹坪



當社の神鎮座甚しく久遠に平歴未詳ありに殊
更奥廢ありたゞりて近頃の兵丸もどく灰燼
旧記の考へるものあること今僅く小初を存してその
旧跡をたゞりてども此地の源佐源佐の神
まつる千速破荒振神千速破荒振神の御進御進の御進御進
名抄に名草郡の源佐神の名とありて上代より最も
ある宮伝はる毎年の祭祀も最も重たうとありけん
るに今式今式の御進御進の御進御進の御進御進の御進御進
神名帳と写すその其廢廢しと聞ゆることあるに
これを除きしもたゞりて量惜むるもあらずや
奈久智の王子社奈久智の王子社 按じると神業記に建仁元年十月廿
凌遠路の道春ナクテ王子と自らえらるるすなりこの
ところあり

大聖心遍照院普門寺

奉する十面觀世音

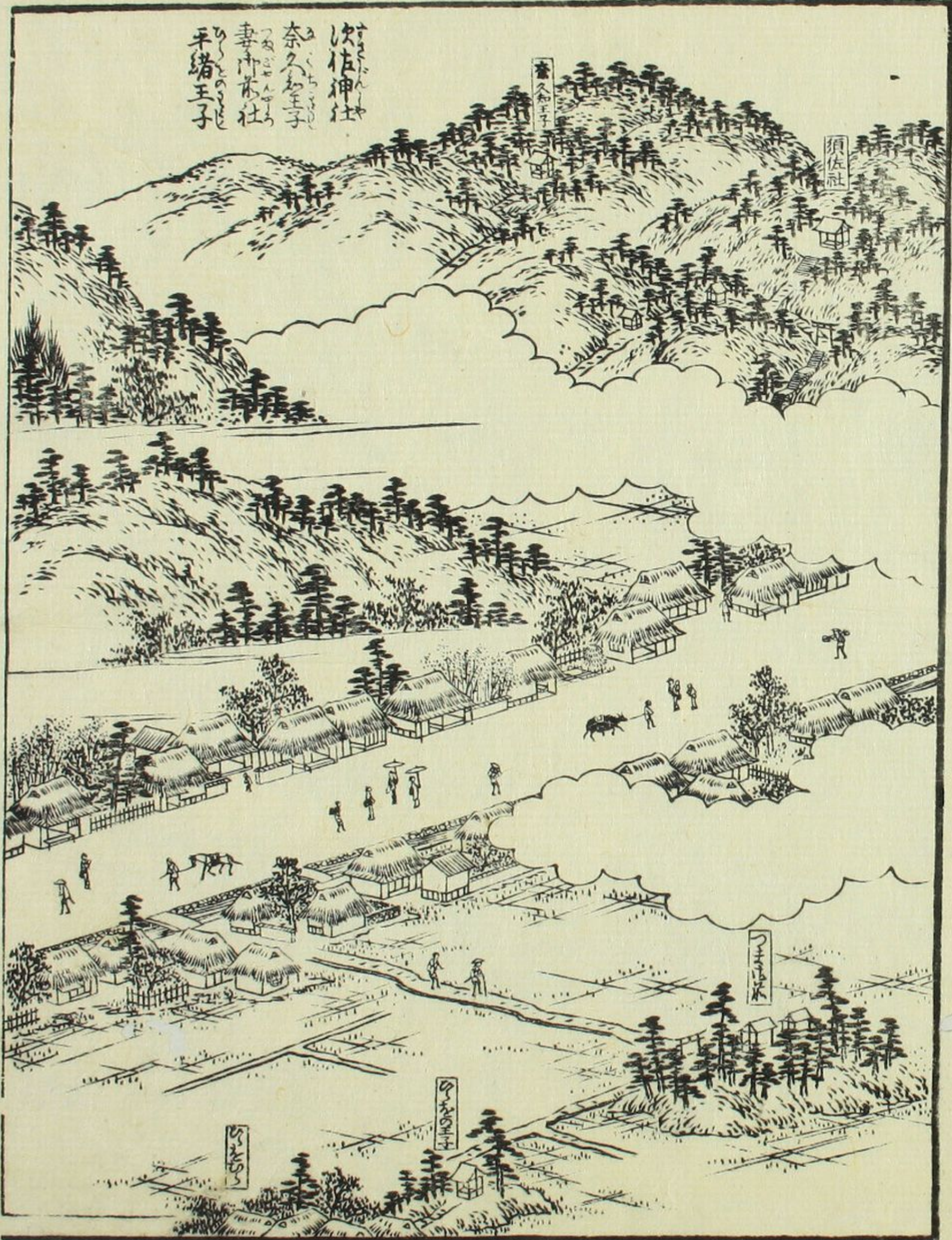
大師堂

鎮守祠

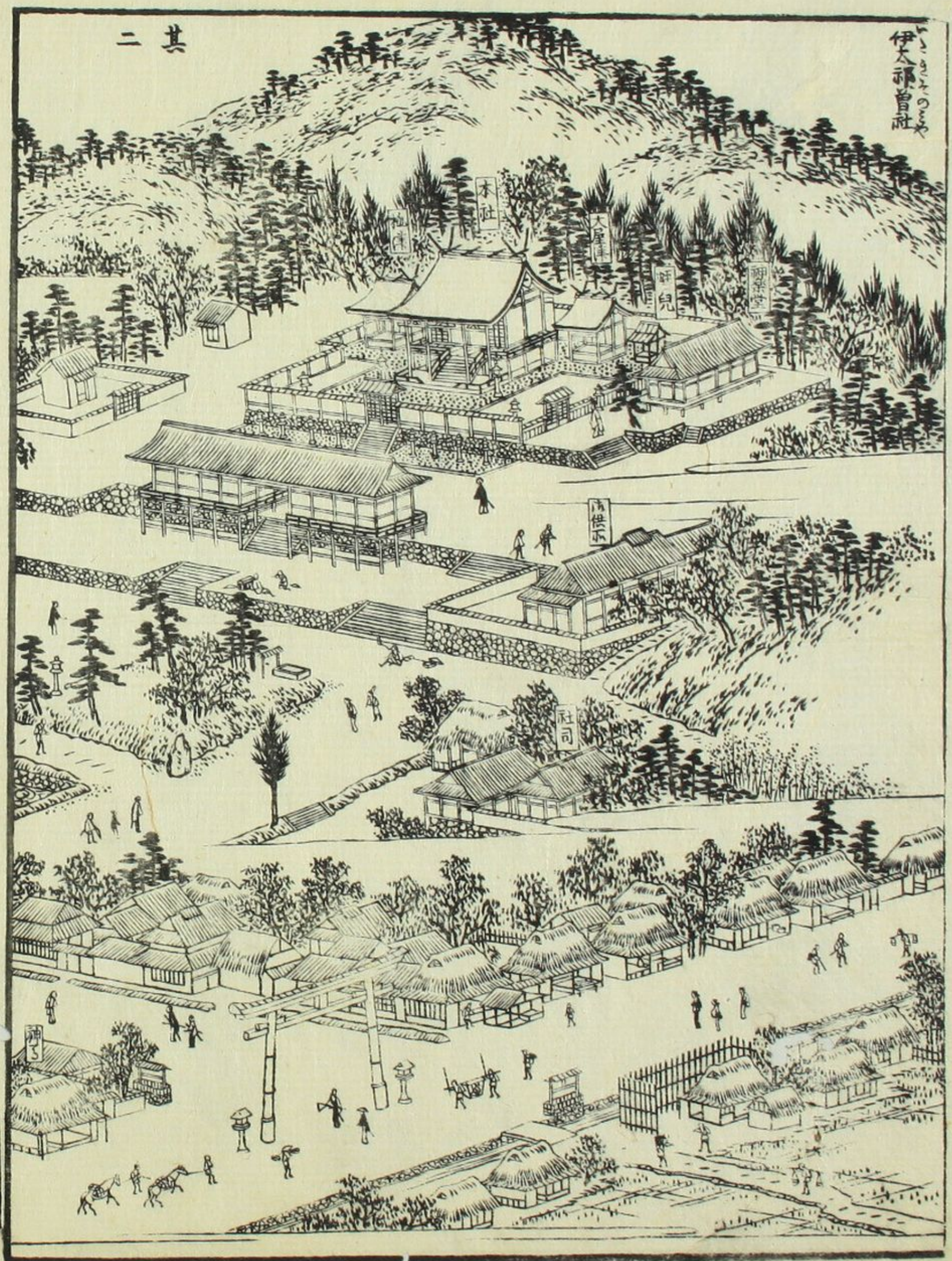
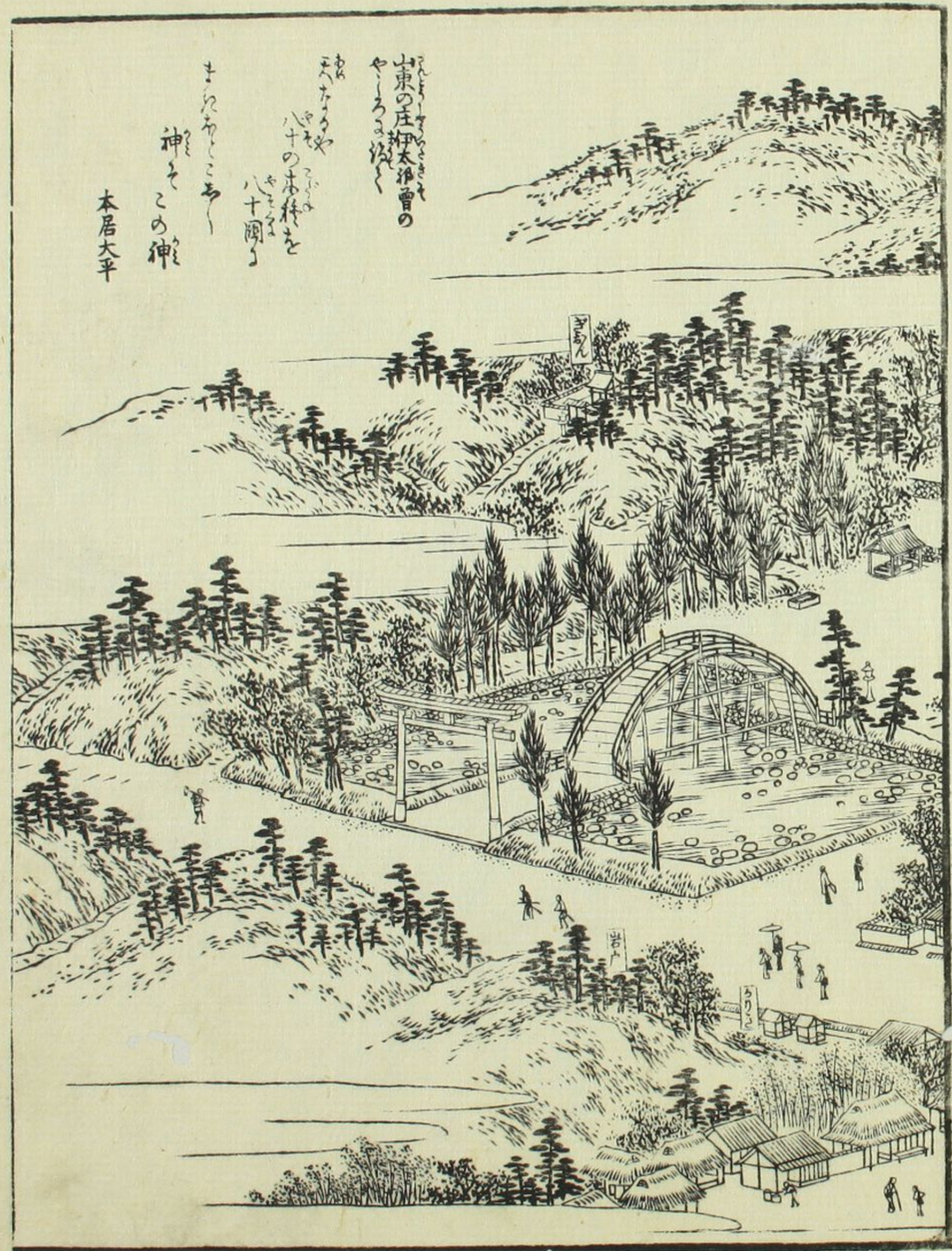
大聖心遍照院普門寺 此の寺は山の中寺の持
奉する十面觀世音 此像は法華經の持
大師堂 此堂は法華經の持
鎮守祠 此祠は法華經の持
此の寺は山の中寺の持
奉する十面觀世音 此像は法華經の持
大師堂 此堂は法華經の持
鎮守祠 此祠は法華經の持

伊弉册神社

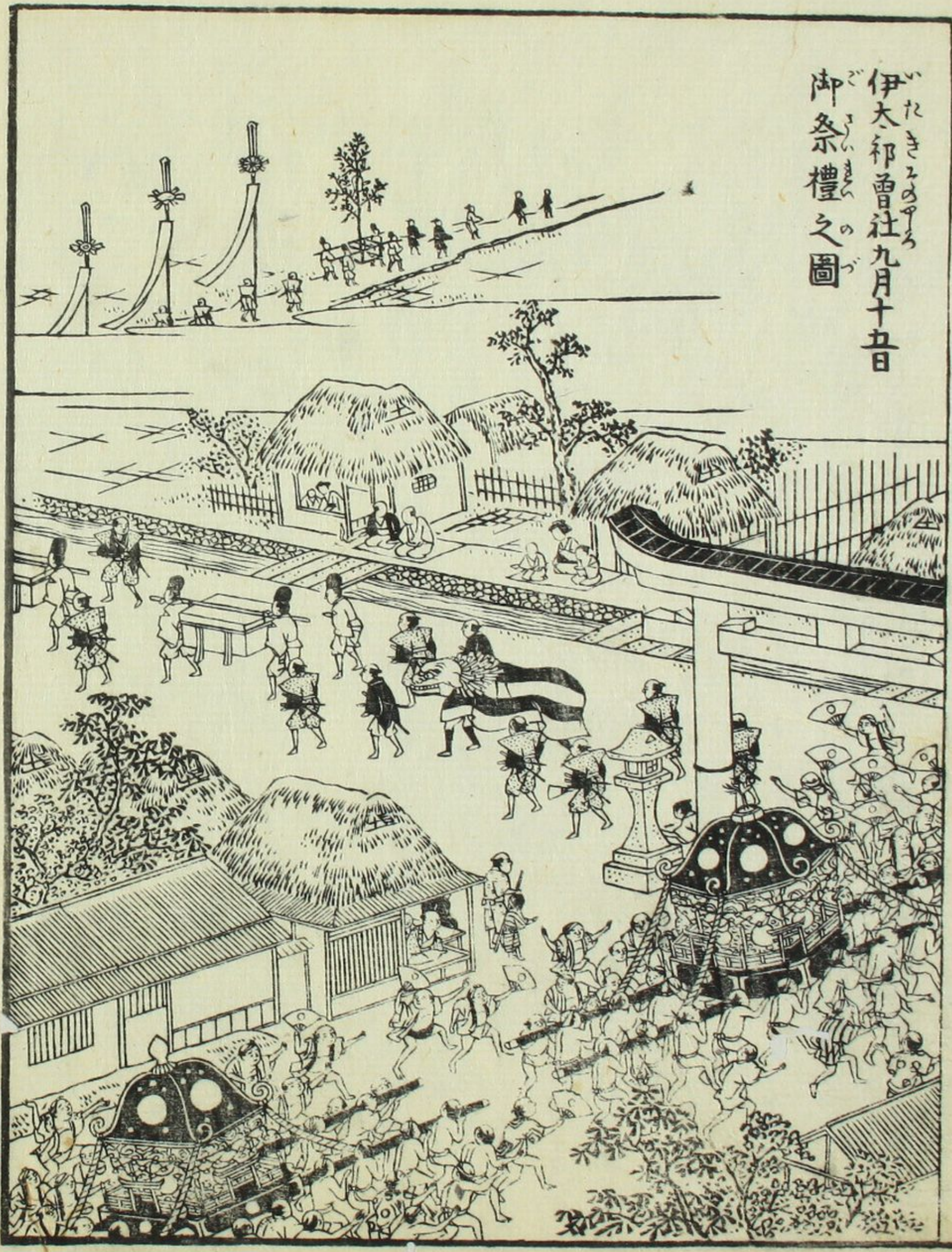
伊弉册神社 此の神は伊弉册の神
山東莊の生土神に御祭る毎年九月十五日己の刻日野矢
田村傳法院の寺内を御祭る神業渡幸の式あり初め
啓の神神女奉る御祭るの式あり



也社司がひい須佐村の在官其外社家のあつく神楽を社人
 官仕末も厳重の神事となりたり還神の後流瀧馬をひい
 諸願成就の敷ふ余のこあり奉文にくりくり
 延喜式神名帳云伊太祁曾神社各神大月次本國神名帳云正一位勲一等伊太祁曾
 大神文德錄實曰嘉祥三年冬十月壬子授紀伊國伊太祁曾神三從五位下云甲子
 遺左馬助從五位下紀朝臣貞守向紀伊國伊太祁曾神社策命曰天皇我詔
 旨申給久御冠授奉嶺初申賜此之依天從五位下乃御司亦上奉利崇奉曾狀乎御位
 記令持天奉出須此狀年聞食天天皇朝廷乎常盤堅盤令護幸奉幸申給以申三代實
 錄曰貞觀元年正月廿七日甲申紀伊國從五位下伊太祁曾神授從四位下陽成
 天皇元慶七年十二月廿八日庚申授紀伊國從四位下伊太祁曾神從四位上日本紀
 畧曰延喜六年二月七日授紀伊國伊太祁曾明神正四位上
 當社の社神の神代のひりくころ此の地は陸産くけりとも
 本國とくころ縁の則けに柱の神神をまきりくけりとも此の地
 の神神の妻を鳥さるのふふまきりく初妻を鳥さるとも
 新羅國のよと降まきりくともたたく樹をもちりくひりは
 くらふこの地は韓地ゆりて盡持ゆりく遠く飛空の
 らぐりてんく大八洲國のゆふ播植たまひる復もあつく



伊太祁曾社九月十日
御祭禮之圖



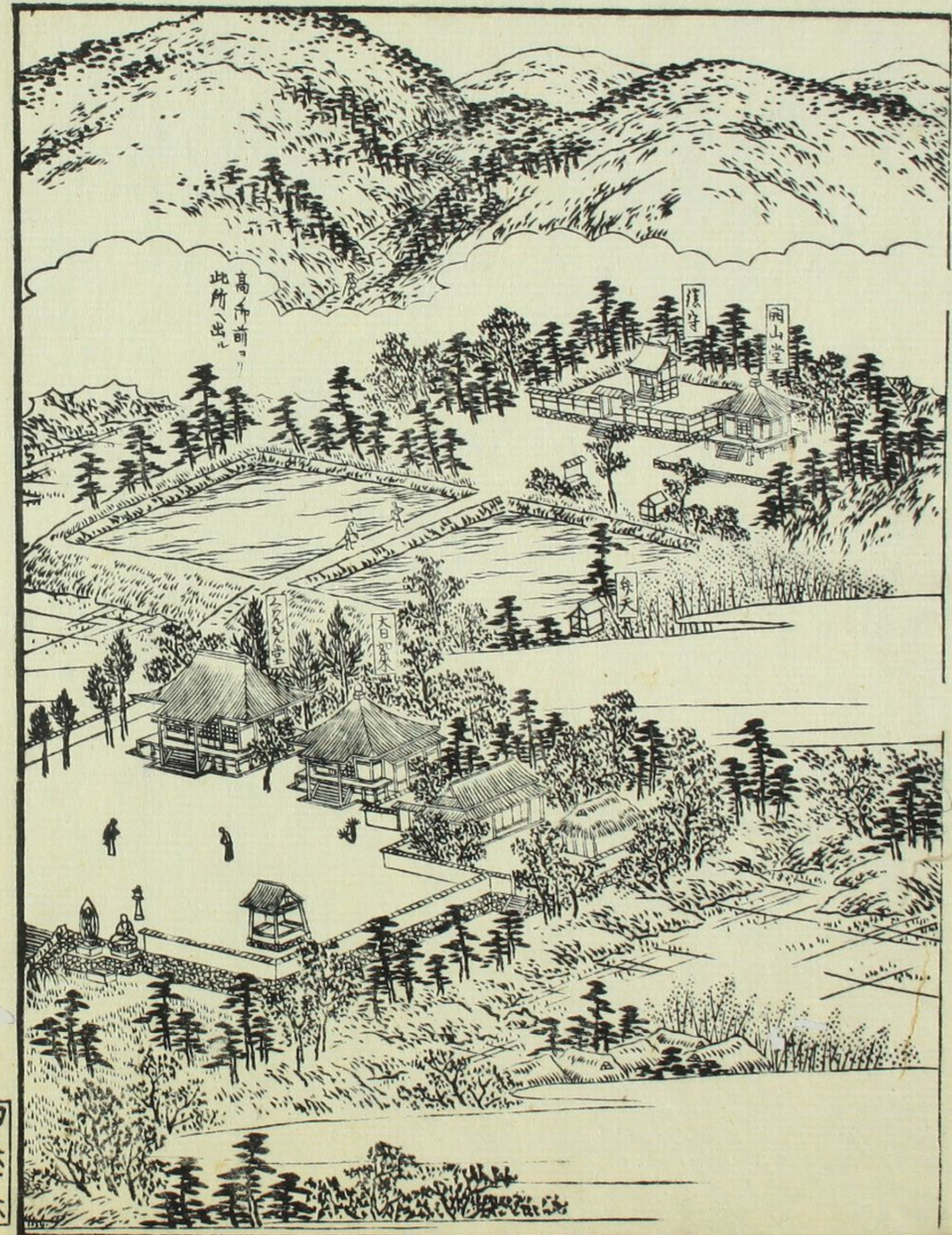
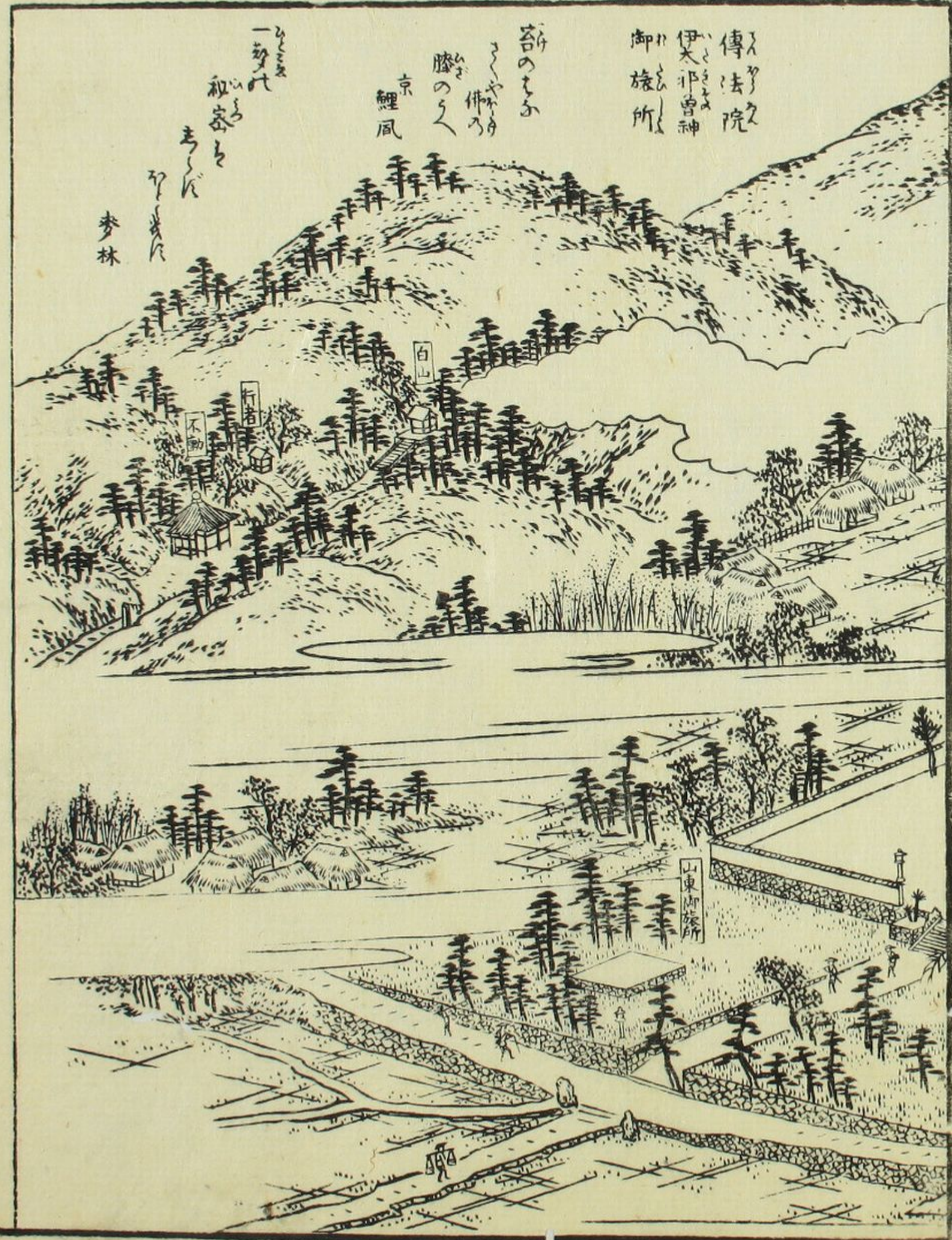
其外諸願成就の致馬々々神楽のる場々々行へとあり甚だ
 仕觀たりこれ則永祚元年風名の送風ありと云
八月三日三箇の町
 今の中松所夫田村にも坊坊末末に
 神官の家宅簷とぬき整たり詣人雑沓と
 神樂のやぶふ庭ふえてり蒼々たる叢樹凡枝とあり
 海盤水波粉々々々民人擁護社櫻と保持は誰の神法と
 作ごんごんささびく敬むべし
倫音
 倫音は伊太祁曾社にありて伊太祁曾社の神法と云ふ
 倫音は伊太祁曾社の神法と云ふ
 倫音は伊太祁曾社の神法と云ふ

龜尾山與德院延壽寺

風光三月鎌山春楊柳會烟桃李新宮上長懸雲五色樓前廣樂欲驚人
 坂井清洲

奉る河弥陀佛

春日の作



護摩堂 護摩の儀を修する堂

大師堂 弘法大師の御像を祀る堂

妻御前社 平尾村にあり奉國神主日蓮一住妻御前社

平尾王子 平尾村にあり奉國神主日蓮一住妻御前社

大悲心觀音寺 平尾村にあり奉國神主日蓮一住妻御前社

觀音堂 觀音の御像を祀る堂

矢田山傳法院明王寺 根來山にあり奉國神主日蓮一住妻御前社

円山堂 根來山にあり奉國神主日蓮一住妻御前社

辨財天行 辨財天の御像を祀る堂

慈悲石 慈悲の御像を祀る堂

龍吟池 龍吟の御像を祀る堂

鎮守行 鎮守の御像を祀る堂

不動堂 不動の御像を祀る堂

白心権現行 白心の御像を祀る堂

當院の用基覺後上人 當院の用基覺後上人の御像を祀る堂

比大傳法院と造立 比大傳法院と造立の御像を祀る堂

建方 建方の御像を祀る堂

小了の師徒群議と傳 小了の師徒群議と傳の御像を祀る堂

二移く丸入 二移く丸入の御像を祀る堂

弘法大師入唐傳来の不知の至る所の靈現 弘法大師入唐傳来の不知の至る所の靈現の御像を祀る堂

大師の助 大師の助の御像を祀る堂

ところの錐鑽乃 ところの錐鑽乃の御像を祀る堂

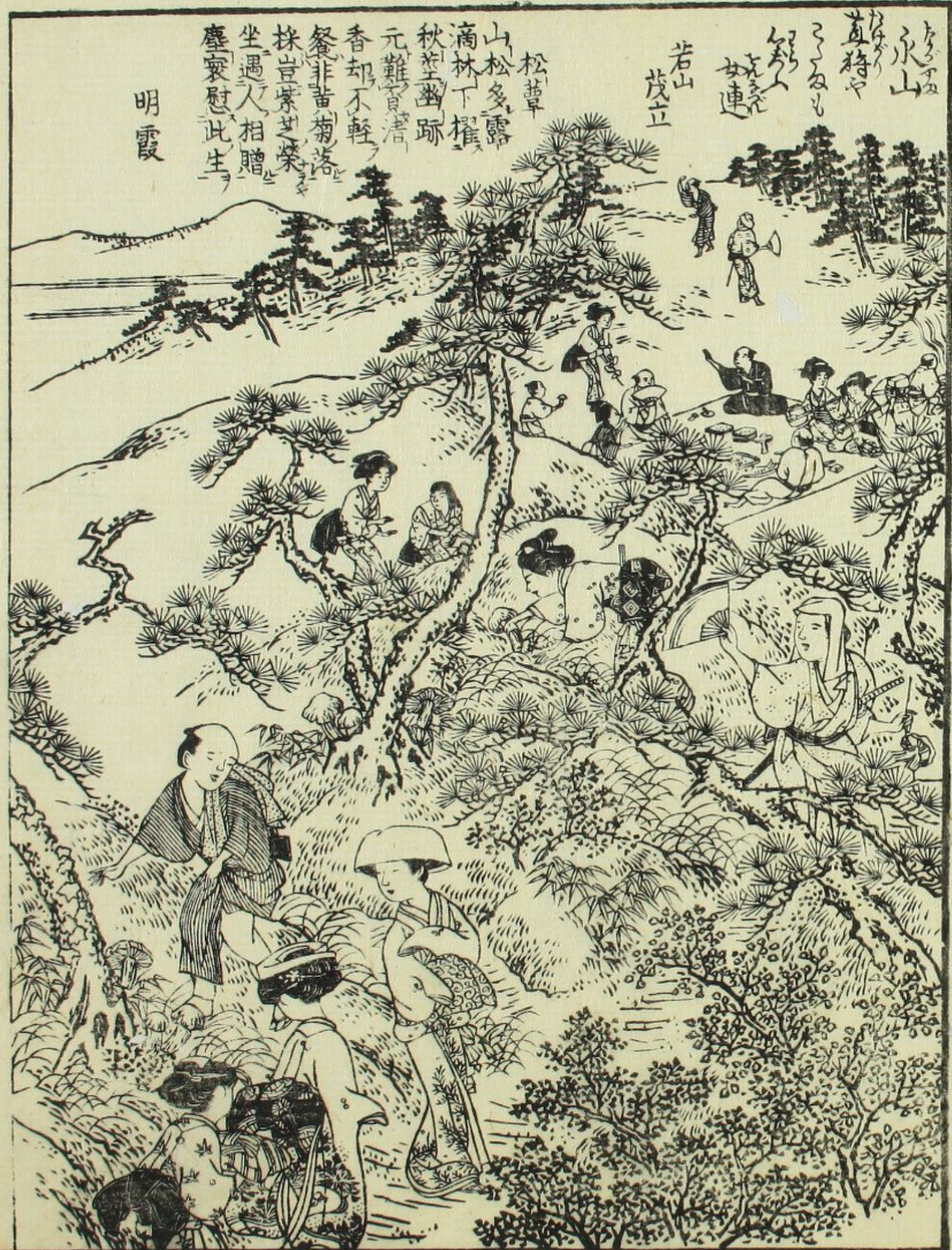
聴 聴の御像を祀る堂

奉寺の悉 奉寺の悉の御像を祀る堂

はの根來山 はの根來山の御像を祀る堂

當院 當院の御像を祀る堂

根來山にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
平尾村にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
平尾王子にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
大悲心觀音寺にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
觀音堂にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
矢田山傳法院明王寺にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
円山堂にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
辨財天行にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
慈悲石にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
龍吟池にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
鎮守行にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
不動堂にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
白心権現行にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
當院の用基覺後上人にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
比大傳法院と造立にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
建方にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
小了の師徒群議と傳にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
二移く丸入にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
弘法大師入唐傳来の不知の至る所の靈現にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
大師の助にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
ところの錐鑽乃にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
聴にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
奉寺の悉にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
はの根來山にあり奉國神主日蓮一住妻御前社
當院にあり奉國神主日蓮一住妻御前社



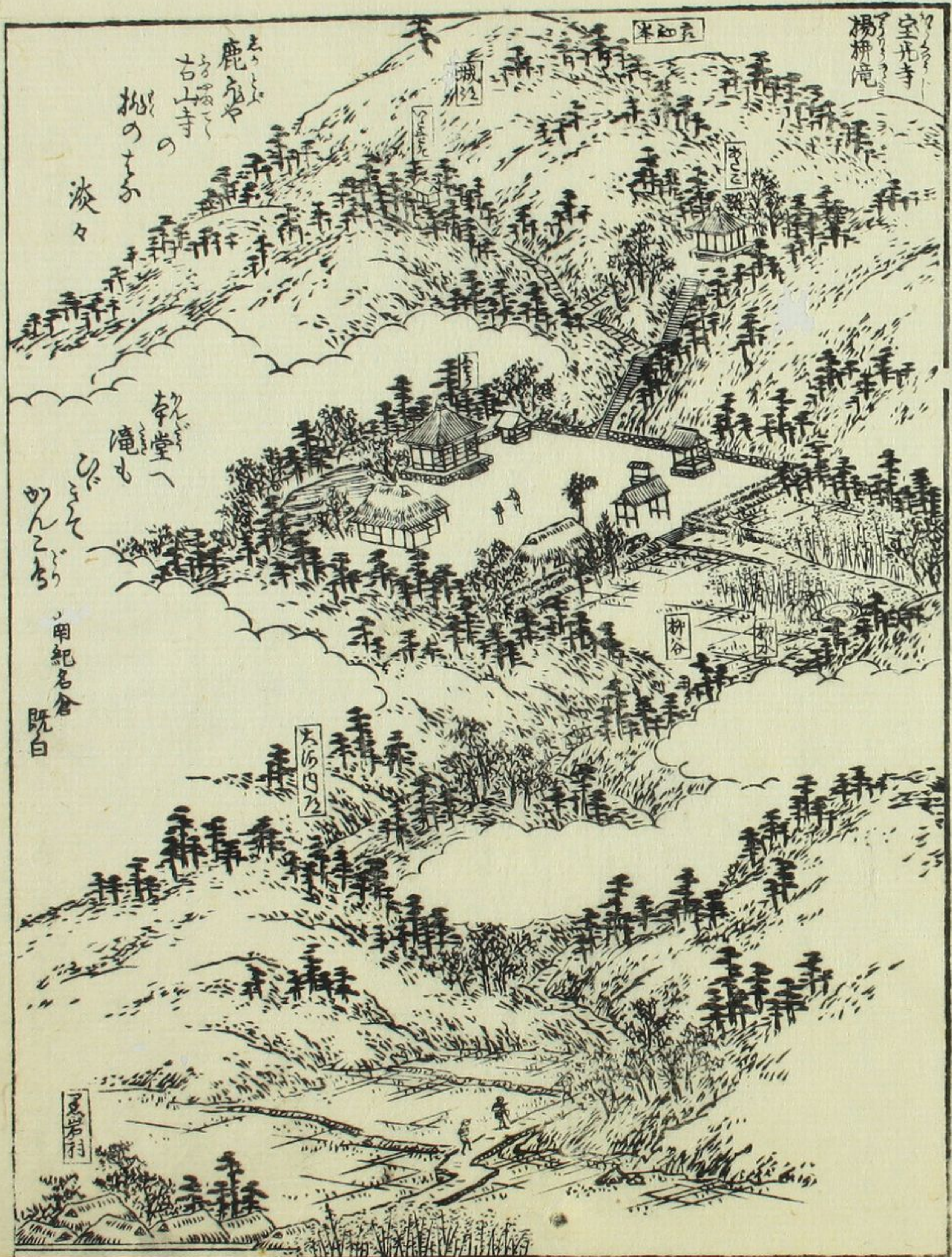
明霞

松草
山松多露
滴林下權
秋葉幽跡
元難音清
香却不輕
餐非昔菊落
採豈家芝榮
坐過入相贈
塵寰慰此生

若山
茂立

永山
直狩
城連

志々傳法院と号す一たまふ是實に崇徳天皇保延六年
 の事と云ふ此當山乃靈區と云ふやめる佛因のありの事あり
 然るより當郷伊太祈曾大神の奥の院とて供僧の輩二十
 餘有髪作て住す當村に住す毎年神輿の渡御いとも厳重と云ふ
 神佛一如のこころありあらはれぬる尤喝仰の気色跡まかり
 あり諸堂巍然とて一方の大巨刹ありとも天正十三年
 二月根來寺の火と共々灰燼し今僅に其遺址存する事と云
 丹生神社 明王寺村にありまつるも丹生津姫神あり伊太祈曾神社の境内にあり
 天宮 日村にあり土人雨の宮といふ本國神名帳に云天手カ男神
 丹生神社 本村にありまつるも伊太祈曾神社の境内にあり
 足守明神祠 日村上野山觀音寺の境内にあり土人云ふ伊太祈曾神社に諸
 里俗のその故と云ふあるかやうの事と云ふ世にまこと多かれ外へはあんずる足守阿
 斯詞備の備の音便に美と云ふ事と云ふ書記の一書に有物若草牙彦生於空
 中因此化神號天常立尊可美草牙彦鼻尊と云ふ事と云ふ草草牙彦鼻尊を共恩



永山名産松菌

永山村の東南ちる山にあり本寺秋のころは松の皮をむき生かす
府城の貴賤はともかく松の皮をむき生かす

松茸

祇南海

乍穿朽葉獨下然原出蟠根倚半天羽蓋曾遺避雨岩
瓊芝誤采巢雲仙滿山香氣桂花後一味風流菊蕊前王
菜金叢舊相識自差塵土未辭緣

あーやんらうもちのび外さじ見けん人のむちを真狩 浪華 紫苗道人

松茸 やんらうもちのび外さじ見けん人のむちを真狩 去 來

楊柳山寶光寺

黒岩村の山八町たうり山上にあり
弘法大師新義根來寺に属す

本尊不動明王

弘法大師像
一丈八尺

眼檀阿彌陀佛

弘法大師の所作
の飛泉より出現したる一丈八尺の

當山にあり

大師堂

弘法大師の像位を尊中にして
當國に四十八所あり

鎮守社

あまのたけ

楊柳の飛泉

本堂より東三町あり
にあり峻岩置くは

當山にあり天長六年春二月弘法大師諸國に遍教をなす

最初が峯 當山より東五六町あり 延文五年畠山入道
直誓が舎を屋長守りてせしころあり

中岡山願成寺 南畑村あり 隆土まゝ
本尊阿彌陀佛 長二尺高祖親多聖人の信託し書には御あり

十五日善信 伊太の神の仕儀中岡
當寺の兩祖佛は名妙弘尼の俗性たがめり 伊太の神の仕儀中岡
定弘もまた 勿稚のたよりより三室に依り 志願最厚りしころあり

上人當國は此の不思議の神告あり 志願最厚りしころあり
妙弘はよこまを 内法直進 他が教の指し得 志願最厚りしころあり
名号と書る 光尊とてはまをりかて上人他邦の湯をめぐりて六部あり
宝典は正信偈和讃を誦し 專修專念更にならり 志願最厚りしころあり
その徳は 法諱をたたりて 根來寺の僧徒は我慢痴癡のころをこ
忽妙弘尼を 盛らうとて 根來寺の僧徒は我慢痴癡のころをこ
ひ旧里より 竊に谷興くころは 草廬と結ひ 朝夕の勤 他事なく
二十八歳の 淮鬢 けり七十四歳の 中春より 病床にあり 歿れたる
臨終もまゝ 権化の再來のやとあり 志願最厚りしころあり

此のむすはと五障の雲をくく西のつこの春の夜の月

とたつふふ 志願最厚りしころあり 素懐をこころに 妙弘尼の不思議の
まゝやせの 権化の再來のやとあり 志願最厚りしころあり

